

サタデープログラム^{36th} ニュース

第2部(11:50~13:20)

講座番号 20 番

がん研究入門

～画期的ながん治療法を開発する～

講師 近藤豊先生



(名古屋大学大学院医学系研究科 腫瘍生物学教授)
1984年東海高校卒業。名古屋市立大学での臨床医、米国テキサス大学での研究活動を経て、名古屋大学大学院医学研究科腫瘍生物学の教授を務める。

遺伝子の調節の仕組みに焦点を当て、研究を行う。基礎的な研究から、将来の創薬、臨床医学につながる研究を目指す。

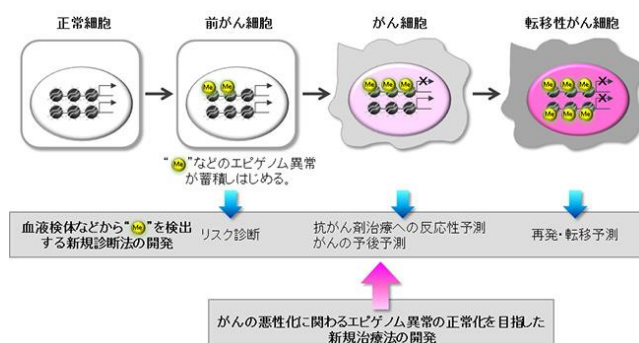
新しいがん治療の手がかり

近藤先生は現在、がんについての研究をされています。がんは日本人の死因の一位を占め、多くの人々が治療を望んでいます。がんは元々自分の細胞だったものが制御を失ったものであるため、「がんだけを攻撃し、自分の細胞は無傷である」という薬をつくるのは困難です。がんにも効く薬は少なからず、正常な細胞に支障をきたしてしまいます。

がんを克服するためには、そのメカニズムを理解することが大変に重要です。メカニズムを解明することは新しく有効ながん医療を生み出す手がかりとなります。

近藤先生はこれまでがん細胞のエピジェネティクス異常について研究を行ってきました。細胞のDNA(ゲノム)上の遺伝子は、状況に応じて“使う／使わない”が決められています。“エピジェネティクス”はその決定を担う重要なメカ

がんの診断・治療への応用を目指したエピジェネティクス研究



ニズムです。

通常は精緻にコントロールされていますが、異常がおこると“がん”をはじめとする様々な疾患の発症につながります。近年、疾患の多様性を説明するには、ゲノム情報に加えてエピゲノム情報の解析が大切であることが明らかになってきました。

近藤先生は、エピジェネティクスの基礎的な研究から将来の創薬、臨床につながる研究を目指しています。

研究者の道

近藤先生の研究は「新しく面白いことを発見する」「患者の病気(がん)を治す」という2つの目標があります。

近藤先生は、「研究者は新たな経験を積むことで、日々知識をより専門的に深める。すると今まで見えてなかったものが見えてくるようになる。」とおっしゃいました。こうして、研究者が発見を増やし、研究が進むことによりこれまで治療法がなかった病気を治すことができます。医療に直接つながる医学の発展は人の健康につながり、多くの人々の希望です。

しかし、医学部に進学する人の多くは臨床医(直接人を治す医者のこと)になり、研究医の道を志す人は少ないのが現状です。近藤先生は、臨床医をしている中、「他の誰にもできない仕事をしたい」と思い、研究の道を志しました。

研究は地道な作業の積み重ねで、思うような結果が出ないこともあります。しかし、そういった積み重ねが新しい治療につながり、社会の発展のために重要な役割を担うこととなります。これは決して臨床医の仕事ではなく、研究者だからこそできる仕事です。

「まだこの世界のだれも知らないことを、明らかにしたい」という考えを持つ人は研究という道をこの講座を通して考えてみてはいかがでしょうか。

最後に

僕は近藤先生の話聞くにあたって、がんについてより多くのことを知ることができました。

また、サタデープログラムにおける、近藤先生の話は「研究の道」について考えるいい機会となるでしょう。がんに興味のある方、医学の道を志そうと考えている人は、ぜひ講座に足を運んでみてください。 H1G 安井琢人

